

青年海外協力隊巡回指導調査団報告書

モンゴル・中国


青年海外協力隊巡回指導調査団報告書

平成 13 年 3 月

国際協力事業団

青年海外協力隊事務局

JICA LIBRARY



J1165010(8)

青海二
JR
01-08

JICA

15

36

172

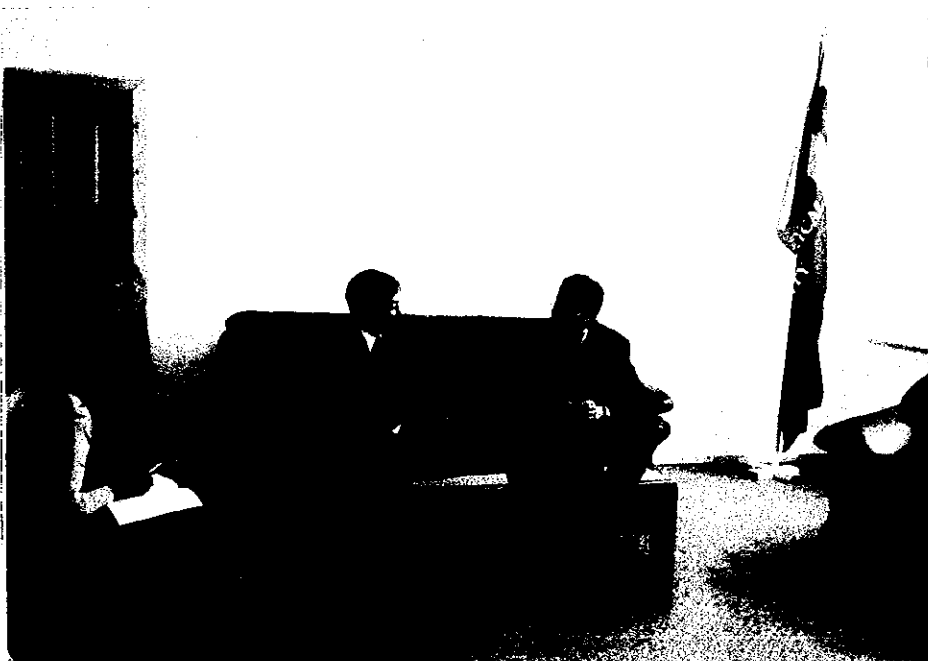
RARY



財政経済省表敬。
写真右端は同省副大臣
L. Enkhtaivan 氏。
(モンゴル・ウランハートル)



教育文化科学省表敬。
写真奥の左端は同省副
大臣 B. Erdenesuren 氏。
(モンゴル・ウランハートル)



国立技術大学訪問。右
より順に学長 Badarch
Dendeviin 氏、金子団
長。(モンゴル・ウランハートル)



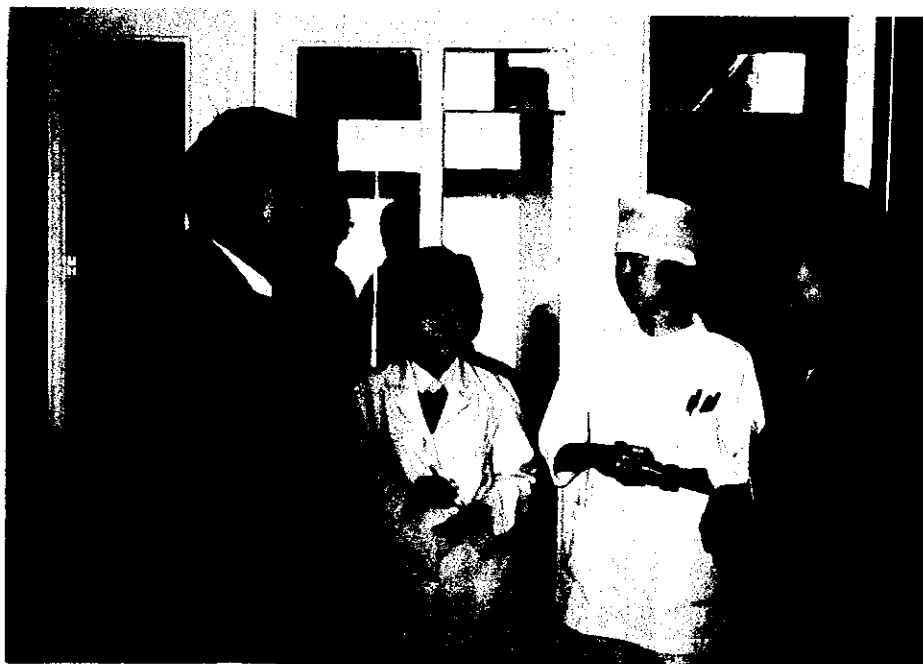
1165010【8】



同大学の日本語クラス授業風景。写真右端は大澤隊員(12/2、日本語教師)。(モンゴル・ウランバートル)



音楽舞踊学校。
写真左端は川辺 SV(ピアノ調律)、右から二番目は同校校長の Narankhuu 氏。(モンゴル・ウランバートル)



ダルハン総合病院。
右から二番目は河野隊員(10/3、臨床検査技師)、隣はカウンターパート。
(モンゴル・ダルハン)



ダールハン県水道管理局。写真左は局長 S.Elbegbayan 氏。その向かいには八陣隊員(10/3、水質検査)。(モンゴル・ダールハン)



ダールハン県第4幼稚園。写真右は照井隊員(11/3、幼稚園教諭)。(モンゴル・ダールハン)



サイハンセテガル義肢装具製作所。写真は所長の E. Ganbold 氏。(モンゴル・ウランバートル)



生越隊員（12/2、果樹）
の配属先である日中友好
果樹園。
（中国・北京市昌平区）



同園内。休日であるにも
かかわらず、カウンターパ
ートが剪定作業を行って
いた。手前は生越隊員。



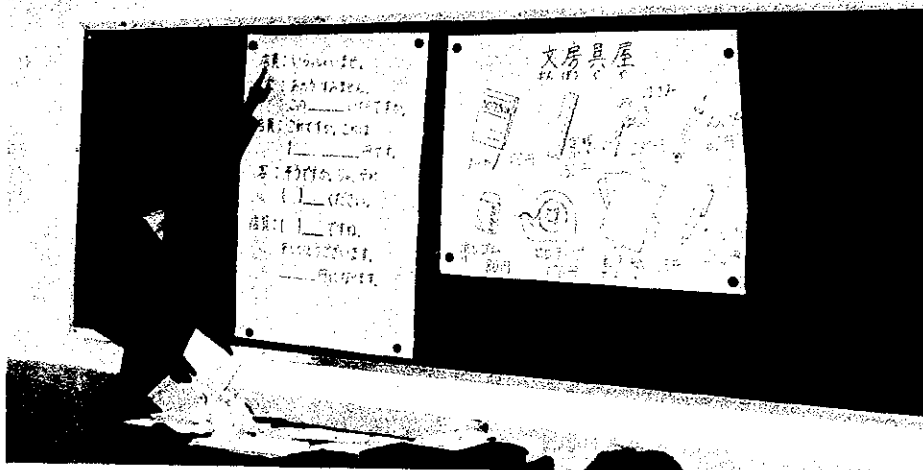
長沙市第 7 中学。安藤
隊員(12/1、日本語教師)
の日本語授業風景。
（中国・湖南省長沙市）



湖南省森林植物園。左より山野井隊員(12/2、花き)、金子団長、夏園長。

(中国・湖南省長沙市)

徳求崇學求悟體求健藝

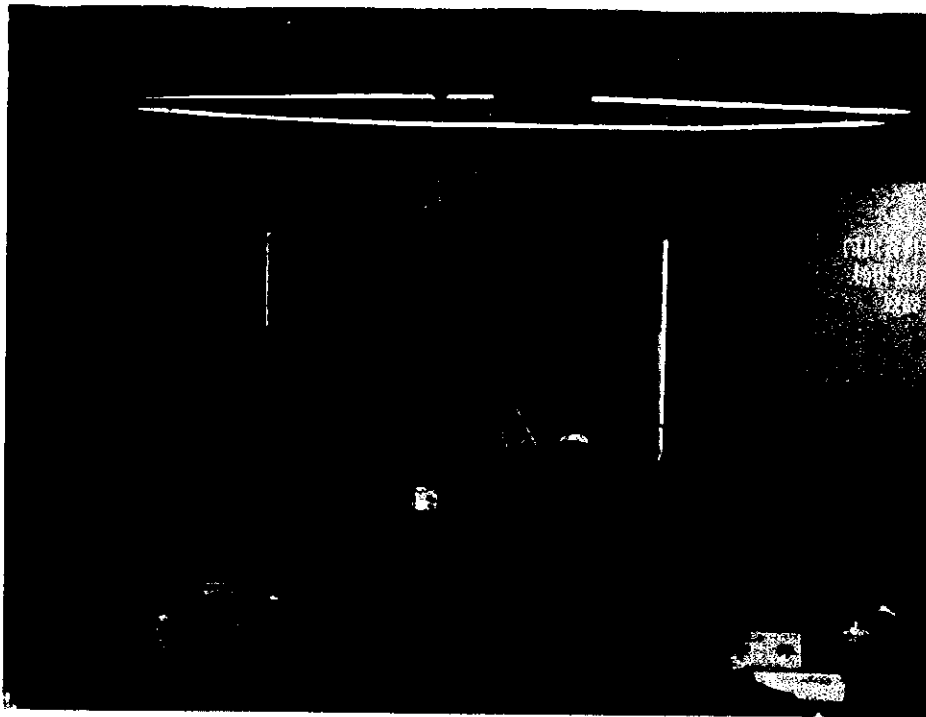


長沙大学。筒井隊員(12/2、日本語教師)の日本語授業風景。

(中国・湖南省長沙市)

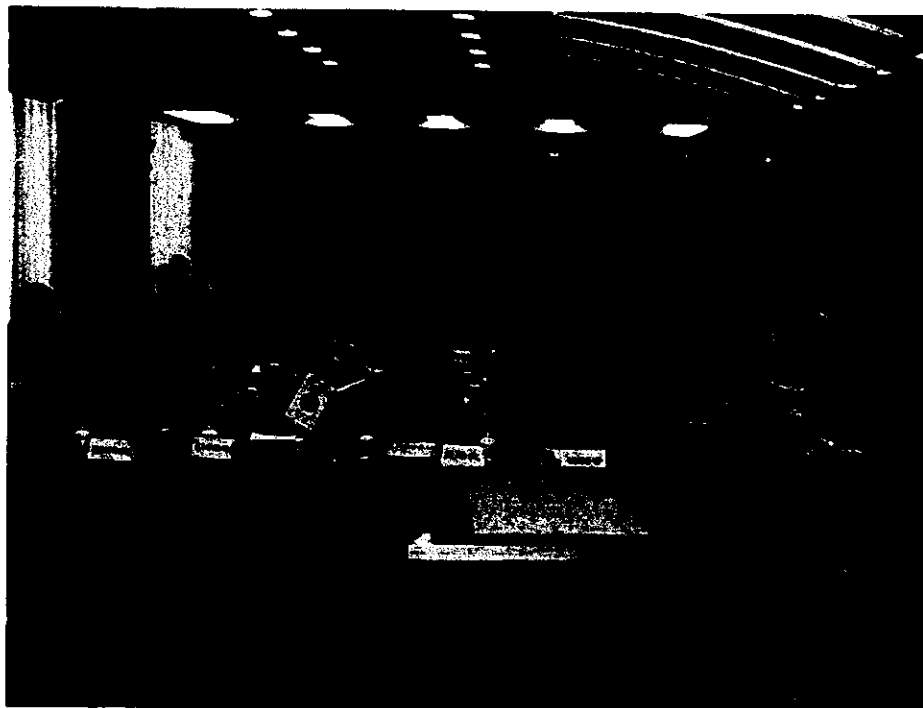


同大学キャンパス内にある筒井隊員の宿舎。中国の学校配属隊員は学内の宿舎を提供されることが多い。



国家科学技術部・JICA
中国事務所共催の技術
協力セミナー。

(中国・四川省成都市)



同セミナーには西部地域各省の国際協力担当者が
出席した。前列は右よ
り順に櫻田中国事務所
長、杉本公使、国家科
技部国際協力局副局長
苑氏。

(中国・四川省成都市)

目次

現地写真集

第1章 調査の概要	1
1-1 調査目的	1
1-2 調査背景	1
1-3 主な対処方針	2
1-4 調査団構成	4
1-5 調査工程	5
第2章 調査結果（モンゴル国）	7
2-1 主な面会者	7
2-2 関係機関との協議結果	8
2-3 隊員活動現場視察	10
2-4 その他関連機関訪問	14
2-5 提言	15
第3章 調査結果（中国）	18
3-1 主な面会者	18
3-2 関係機関との協議結果	19
3-3 隊員活動現場視察	19
3-4 技術協力セミナー結果	22
3-5 提言	23

附属資料

1. モンゴル隊員配置図（2001年3月1日現在）
2. 中国隊員配置図（2001年3月1日現在）
3. 中国隊員派遣現況・派遣実績（2001年3月1日現在）
4. 中国成都市技術協力セミナー概要

第1章 調査の概要

1-1 調査目的

今回の調査は、モンゴル及び中国への青年海外協力隊員（以下、JOCV）の派遣にかかる重点分野・適正派遣数・隊員活動支援のあり方等について、両国政府窓口機関・隊員配属先機関・日本大使館・JICA 事務所等と協議を行うことを目的とする。

また併せて、シニア海外ボランティア（以下、SV）に関しても、モンゴルについては現在派遣中の同ボランティアの活動状況を把握するとともに、今後の派遣方針を検討することとする。また、中国については、SV の新規派遣に関して JICA 事務所や先方政府の意向を確認するとともに、潜在的ニーズについて具体的に検討する。

1-2 調査背景

(1) モンゴル

派遣中の JOCV は平成 13 年 1 月 1 日現在で 50 名、また、派遣が開始された 1992 年 4 月以降の派遣隊員累計は 114 名である。当初は技術分野の隊員が多く派遣されたが、90 年代後半以降はこれに替わって徐々にスポーツ分野、教育分野への派遣要請が増加し、さらに 98 年には医療分野への派遣も開始された。従来より当国における隊員活動は先方関係機関から高く評価されており、特に地方都市からは隊員派遣の要望が多く聞かれるものの、その生活環境の厳しさから、現時点では隊員の 7 割が首都ウランバートルに集中している状況である。以上のような状況を鑑み、今後は、医療事情や生活環境を見極めつつ、隊員の技術レベルに適合した地方の要請開拓を積極的に進める方針である。

一方 SV に関しては、2000 年 11 月よりウランバートルにて 3 名のボランティア（ピアノ調律、品質管理、商業経営）が活動を開始しており、先方のニーズと生活環境を見極めつつ今後徐々に派遣を拡大していく方針である。

(2) 中国

派遣中の JOCV は平成 13 年 1 月 1 日現在で 73 名、また、派遣が開始された 1992 年 4 月以降の派遣隊員累計は 411 名にのぼる。当国への派遣は当初より日本語教師派遣が約半分を占めているが、同分野に関しては、今後は特に中等教育機関への派遣が期待されている。また当国では、拡大しつつある地域間格差の是正を目標に、第 10 次 5 年計画として西部大開発戦略が掲げられており、今後はこうした国家計画も視野に入れ、地方への派遣拡大ならびに農業開発分野における要請開拓を強化していく方針である。

SV に関しては、現在派遣開始に向けて調整中であり、今後日本大使館及び JICA 中国事務所と国家科学技術部との間で、具体的な手続方法も含め協議を進めていく予定である。

1-3 主な対処方針

(1) モンゴル

1) 派遣計画

平成 12 年度秋募集では、要請 13 件のうち合格者が確保できたのは 4 件であった。これは、モンゴルの技術レベルが向上し、隊員では要請レベルに対応できなくなっていることが一因として挙げられる。技術系の職種については徐々にシニア海外ボランティアでの対応にシフトし、日本国内での応募者が多く比較的合格者を確保しやすい職種（青少年活動等）の開拓を進めることも選択肢の一つである。また、当国では養護や幼稚園教諭の需要が多く、今後も当該職種隊員のニーズは高まると思われる。

今回調査では、以上のような状況を踏まえつつ、今後協力隊派遣により協力できる分野、重点としたい分野について先方の意向を聴取し意見交換を行う。

また、日本大使館及び JICA モンゴル事務所においては、現状の問題点について聴取し、今後の展望と方向性のほか、JOCV と SV、SV と専門家のデマケと連携のあり方についても協議を行う。

2) 地方展開

当国では人口 240 万人のうち 65 万人が首都ウランバートルに集中していることから、今後も首都中心の派遣となることは必至である。しかしながら、近年都市と地方の経済格差が拡大しつつあり、また上記 1) の通り特に都市部配属先の技術レベルが向上していること、また地方から寄せられるの協力隊派遣への期待が大変大きいことから、今後も引き続き地方への展開を図る必要がある。

ただし、ダルハンにはすでに 13 名が派遣されていることから、その他の地方都市で、かつ生活環境と治安の面から派遣可能な都市を具体的に検討したい。

今回調査では、地方展開に関する先方政府と日本国大使館の見解を確認するとともに、JICA モンゴル事務所より、地方からの要請提出状況と地方派遣にかかる問題点（連絡体制、生活環境等）について聴取し、今後の地方展開の方針について具体的に検討する。

3) シニア海外ボランティア

現在 3 名の SV が活動中であり、配属先からはその高い技術力が評価されている。しかしながら、派遣開始から間もないこともあり、同事業に対する先方の認知度は JOCV に比較するとまだ低いと思われる。また、当国は冬季の気候条件が厳しいほか、国内で英語があまり普及していないなど、活動環境上の問題点も懸念される。

今回調査では、関係者に SV 事業の概要を改めて周知させるとともに、現在活動中の SV より生活環境や語学面での問題点の有無について聴取し、問題がある場合は、その解決

策について関係者と協議を行うこととする。

4) 生活環境等

当国は冬季の冷え込みが厳しく、毎年、零下 40℃にまで気温が下がる。今年は特に寒さが厳しく、隊員が 13 名派遣されているダルハン市でも零下 50℃を記録した。こうした時期は外出もままならなくなるため、隊員は少なからずストレスを感じているようである。今回調査では、特に冬季の生活状況について隊員より聴取し、問題点については関係者と協議を行い解決に努めることとする。

一方、傷病では、けが、風邪、歯科疾患、食あたりが多く報告されている。風邪や食あたりの場合は韓国支援のヨンセイ病院で、外傷や緊急の場合は日本大使館の医務官に依頼し協力を仰いでいる。今回調査では、罹患の多い傷病やその対応状況について JICA モンゴル事務所に確認するとともに、日本大使館の医務官より当国の医療レベルや留意点について聴取する。

(2) 中国

1) 派遣計画

派遣規模については当面 80 名台を目指すこととしているが、活動支援体制等の現況や中国側の地方科学技術庁の受入体制から判断すると、この数字は妥当であると思われる。ただし、中国の場合日本語教師隊員が多いため、1 次隊での派遣が突出して多くなることから、全隊次を通じてバランスのとれた派遣を行うことが求められよう。今回調査では、SV の新規派遣も考慮に入れたうえでの JOCV の適正派遣規模について、JICA 中国事務所の見解を聴取するとともに、上記の派遣目標人数に変化がないか確認する。

また、職種について言えば、次項 2) の通り今後は地方展開の必要性も高まると考えられるところ、内陸の貧困地域で需要が多いと予想される農業・教育・保健衛生分野の要請増加も見込まれる。今回調査では、当国の上位計画や現在のニーズとも照らし合わせ、今後協力隊派遣により協力できる分野、重点としたい分野について、国家科学技術部や四川省科学技術庁の意向を聴取し意見交換を行う。

2) 地方展開

中国政府は東西の経済格差の解消を目指し、西部大開発を国家政策として標榜している。

今回調査では、地方への JOCV 派遣に関し、重点地域や重点分野等を含めた今後の展望について、国家科学技術部の意向を確認する。また、四川省成都市で開催される予定の技術協力セミナーにおいては、地方各省がそれぞれどのようなニーズを持っているかを把握し、JOCV 及び SV による協力の可能性を検討したい。なお、JICA 中国事務所とは、活動支援体制も含めた今後の地方展開の方針について具体的に協議を行う。

3) 要請背景調査及び巡回指導調査

現在のところ、年間 100 件を超えるブルーシートを受理しているが、実際に要請背景調査を実施する割合は 30-40%に留まっている。これは、協力隊事業に関する理解が十分でない地方政府がまだ見受けられるほか、国土が広大であるために十分な調査を行うことができないためである。また、巡回指導調査についても、国土が広いうえに、ほとんどの隊員が省都から更に離れた配属先で活動しているため、あまり十分な時間がとれていない。

これらについては、今後の改善策について JICA 中国事務所と具体的に協議を行うこととする。

4) シニア海外ボランティア

既述の通り、今後は派遣開始に向けて関係各機関と具体的な協議を進めていくこととなる。

今回調査では、SV 派遣開始にかかる国家科学技術部の意向を確認するとともに、各地方科学技術庁の担当者が集まる成都市技術協力セミナーの場で SV 事業についての紹介を行い、関係者の理解を促進する。

1-4 調査団構成

	氏名	職位
総 括	金子 洋三	青年海外協力隊事務局 局長
派遣計画	丸山 鈴香	青年海外協力隊事務局 海外第二課 職員

1-5 調査工程

月日	時間	内容	訪問隊員	宿泊先
2月18日 (日)		成田(10:40) = JL781 = (13:40) 北京		北京
2月19日 (月)	10:00-11:30	日本国大使館表敬 北京(14:30) = OM224 = (16:30) ウランハートル		ウランハートル
2月20日 (火)	10:00-10:30	JICA モンゴル事務所打合せ	大澤(12/2、日本語) 近藤(11/1、電気機器) 高谷(12/1、電子工学)	ウランハートル
	10:45-11:50	日本国大使館表敬		
	12:00-12:40	外務省表敬	大槻(11/2、空手道) 川上(11/3、合気道)	
	14:00-14:40	財政経済省表敬		
	15:00-15:30	教育文化科学省表敬		
	15:40-17:00	技術大学視察		
	17:10-17:40	UNDP 事務所訪問		
	18:00-18:30	空手道道場(空手道連盟)視察		
	18:45-19:15	合気道道場視察(合気道協会)視察		
2月21日 (水)	9:00-9:40	第23中学校視察	大泉(12/1、日本語) 佐藤(12/1、日本語) 川辺(SV、ピアノ調律)	ダルハン
	9:50-10:20	音楽舞踊学校視察		
	10:30-11:20	サンセテケル製作所訪問		
	12:30-15:30	ウランハートル→ダルハン(車輛)		
	16:00-16:30	ダルハン県庁表敬		
	16:45-17:15	水道管理局視察		
	17:30-18:20	治療保育園視察		
19:00-	懇親会(ダルハン隊員)			
2月22日 (木)	9:00-9:30	ダルハン工業大学	黒木(10/3、電機機器) 河野(10/3、臨床検査) 照井(11/3、幼稚園)	ウランハートル
	9:35-10:00	ダルハン総合病院		
	10:10-10:40	第4幼稚園		
	13:00-16:00	ダルハン→ウランハートル		
	16:30-17:00	JICA モンゴル事務所打合せ		
18:30-	懇親会(先方関係機関及びウランハートル隊員)			
2月23日 (金)		書類整理		ウランハートル

2月24日 (土)		ウランハートル (10:30) = OM223 = (12:30) 北京 書類整理		北京
2月25日 (日)		友好観光果樹園視察	生越(12/2、果樹)	北京
2月26日 (月)	9:00-11:00	JICA 中国事務所打合せ 北京 (16:10) = CZ3142 = 長沙 (18:10) 懇親会 (湖南省科学技術委員会)		長沙
2月27日 (火)	7:50-9:00 10:30-13:30 15:00-16:00 16:30-18:30 19:00	長沙第7中学校視察 森林植物園視察 長沙大学視察 長沙市体校視察 懇親会	安藤(12/1、日本語) 山野井(12/2、花き) 筒井(12/2、日本語) 土岐(11/2、水泳)	長沙
2月28日 (水)	11:30-12:30 14:00-15:00	長沙 (9:15) = MF8401 = (10:30) 成都 攀枝花市体育運動委員会視察 四川省科学技術庁打合せ	富田(11/2、野球)	成都
3月1日 (木)		技術協力セミナー参加		成都
3月2日 (金)		成都 (8:00) = 3U141 = 北京 (10:10) 北京 (15:00) = JL782 = (19:05) 成田		

第2章 調査結果（モンゴル国）

2-1 主な面会者

(1) 外務省

Mr. Luvsandorj Dawagiv Director, Asia & America Department
Mr. Lundaa Davaajargal Asia & America Department

(2) 財政経済省

Mr. L. Enkhtaivan Vice Minister
Mr. Khosbayar Amarsaikhan Director-General, Department of Economic Cooperation Management and Coordination
Mr. Luvsanbaldan Chuluun Department of Economic Cooperation Management and Coordination

(3) 教育文化科学省

Mr. Baatar Erdenesuren Vice Minister
Mr. Norov Urtnasan Head of External Cooperation Division

(4) ダルハンウール県庁

Mr. Damdin Khayankhirvaa Governor of Darkhan-Uul Aimag, Mayor of Darkhan city
Ms. Batdulam Jambadoo Officer for Foreign relations affairs

(5) UNDP モンゴル事務所

Ms. Saraswathi Menon Resident Representative and UN Resident Coordinator
Ms. Margreet van Doodewaard ICT (Information Communication Technology) Officer
Mr. Atsushi Yamanaka ICT (Information Communication Technology) Officer

(6) 日本国大使館

上園 昌弘 公使
深澤 公史 一等書記官
宇野 史洋 一等書記官、医務官

(7) JICA モンゴル事務所

松本 賢二 所長
小熊 誠 調整員
荒井 順一 調整員

2-2 関係機関との協議結果

2月20日～22日の3日間、関係機関を訪問しSVを含む協力隊事業に関し意見交換を行った。各訪問先における主な協議内容は以下の通りである。

(1) 在モンゴル日本国大使館

1) 農業セクター支援について

深澤一等書記官より、①2000年7月に発足した新政府は前政権と同様に地方展開と農業振興に注力していること、また、②（現在問題となっているストリートチルドレンが農村地帯から都会に出てきた子供達であることから）大使も農業分野での協力を重視していることが挙げられた。

モンゴルにおける農業セクターの重要性は十分認められるものの、当国の営農形態が日本とは随分異なることや農村地帯の厳しい生活環境を考えると、実際に現場に協力隊を派遣することは難しいと思われる。ただし、農業省本省を支援する形での協力であれば可能性はあると考える旨を調査団より回答した。

2) SV派遣について

政策提言型は専門家、現場レベルでの技術協力はSV、という方向性で今後も積極的に派遣することで合意した。特に、都市部における技術レベルは高く、隊員ではもはや対応できないケースも生じていることから、こうした配属先について優先的にSV派遣を検討することが妥当であるとの判断に至った。ただしSV派遣に際しての留意事項として、宇野医務官より、①当国では薬が不足しており検査もできないことをSV自身がまず認識すべきであること、②持病の管理と薬剤の日本からの定期的な購送を手配する必要があること、以上二点が指摘された。

3) 医療事情について

宇野医務官より、当国における主な傷病は感染症、結核、外傷であり、特に感染症は、検査技術のレベルが低いために原因の特定ができないことが問題であるとの説明があった（これに関し同国派遣の医協プロ技専門家からは、さほど神経質になる必要はないとのコメントも得られている）。

また、病院での治療に際しての感染症も否定できないことから、外科手術を伴うような邦人の重症例では、即時北京または日本への緊急移送を前提としている。

(2) 外務省

団長より、モンゴルの政策に沿った形で隊員を派遣し、より効果的な協力をしたいと考えていることを述べ、SV 派遣及び JOCV の今後の地方展開について説明を行った。これに対し、アジア・アメリカ局長からは、①モンゴルは現在市場経済化の流れの中にあるため、SV には企業経営やマネージメントの分野で力強いサポートを期待していること、②地方派遣が決定すれば地方各地から要請があがると思われること、また、③JOCV に何ができるのかを積極的に宣伝してほしい旨の発言があった。これに対し松本モンゴル事務所長より、今年は隊員派遣 10 周年という節目の年であることから、これを機に両国が協力して積極的に JOCV 事業を宣伝していくことを提案し、双方合意した。

(3) 財政経済省

まず副大臣より、これまでのモンゴルにおける JOCV の活動について、隊員が現場レベルでの両国の友好関係強化に大変貢献してきた旨の評価があった。また、SV に関しても、戦後の高度成長期を乗り切ってきた人々の能力は大変重要であると考えており、そうした SV から技術を学べることを嬉しく思っているとのことであった。

モンゴル政府はここ 4 年の間に中期・長期の開発計画を打ち立てているが、その第一課題を「経済の発展」とし、特に輸出産業の振興、農牧業の発展、経済構造改革等を目指している。同副大臣によれば、中でも基幹産業である農産物加工、観光業の振興、市場経済移行のための人材育成を重視しているとのことであった。また、同省について言えば、税務局に優秀な人材を派遣してほしい旨の要望があった。これは、SV を想定しての発言であったと思料される。

先方の要望に対し団長からは、モンゴルの開発課題に沿った協力としたい旨を回答した。

(4) 教育文化科学省

1) SV 派遣について

副大臣より、SV 派遣にかかる唯一の障害は言葉の問題であるが、英語のできる人材であれば、特に配属先が大学の場合は問題ないとの説明があった。

また、現在要請の多い分野としては、日本語教師、秘書、獣医師、医療関係が挙げられる。特に地方に関しては、現在国策として全国の中学校のコンピューター化を促進していることから、情報工学や SE の需要が高く、こうしたボランティアを学校に直接派遣できない場合は、県庁の所属として受け入れたいとのコメントもあった。また日本語教師についていえば、日本語を教えるだけでなく、一つの組織の運営やカリキュラムの作成を含めて、日本のやり方を導入したい旨の要望も出された。

協議の結果、多種多様な分野でニーズがあることが確認されたが、上述分野への派遣については、SV 或いは JOCV のいずれのスキームがより適切であるかを JICA モンゴル

事務所において十分に検討することが必要であると思料する。

2) JOCV 事業に対する評価

JOCV 事業の長所について、副大臣と国家行政協力局副局長より以下の通りコメントがあった。

- ・ 教授法が大変すばらしい（モンゴルは現在ロシア式の教授法である）。
- ・ 派遣前に総合的な訓練を行っているのは良いことである。任国事情の習得や語学訓練は、活動を行ううえで大変役に立っている。
- ・ JICA モンゴル事務所の業務分担がはっきりしており、仕事をしやすい。

なお、問題点としては、なかなか環境に馴染めない隊員もいることや、隊員は総じて遠慮がちなので困っていても誰にも相談しないという傾向が見られることが挙げられた。

(5) ダルハン県庁

同県では、ダルハン市において 13 名の隊員が活動中である。県知事より、隊員は厳しい気候環境にもすぐに慣れて元気で活動しており、また隊員に対する良い評価は聞いても悪い評判は耳にしたことがないとの評価があった。また、隊員には、問題点や要望があればすぐに知事に連絡してほしいことを日頃から伝えているとのことであり、同知事が協力隊事業に対し大変協力的であることが改めて確認された。

なお、同知事より民間企業への派遣の可否について質問があったため、調査団からは、政府間の取極であるため民間企業への派遣は行っていないが、非営利の NGO であれば可能性はあることを回答した。

2-3 隊員活動現場視察

(1) 国立技術大学（ウランバートル）

面談者：バタルチ学長

訪問隊員：大澤優子隊員(12/2、日本語教師)、近藤智則隊員(11/1、電気機器)、高谷勝也隊員(12/1、電子工学)

同大学には、1992 年の派遣開始時より継続して JOCV を派遣しており、今年で 10 年になる。バタルチ学長によれば、現在は年に 1 回、隊員やスタッフと共に活動について評価したり協議を行ったりしているとのことであり、JOCV から出された要望や課題については前向きに解決していきたいとの協力的なコメントが得られた。なお、同大学の場合は、隊員住居の一定割合を先方が負担していることもあり、隊員の受入は今後も年 10

名以内に絞り込む考えであることが確認された。

なお、同大学は全国に 17 校の分校を有するが、今年は地方の分校から SV 派遣の要請が挙がっているとのことである。同大学の協力隊事業に対する理解は深く、また受入体制も大変整っていることから、今後は先方とも協議を重ね、JOCV と SV のそれぞれの特長を生かした効果的な派遣を行うことが可能であると考ええる。

(2) 空手道連盟 (ウランバートル)

面談者 : ジグジット会長

訪問隊員 : 大槻秀樹隊員 (11/2、空手道)

同配属先は、青少年の育成や伝統的な日本武道の普及を主な目的として、1991 年に設立された。大槻隊員は、現在 7 歳から 50 歳までの会員を対象に指導を行っているが、青年層の会員が少ないことから、今後は指導者育成に力を入れたいと考えている。同隊員は、連盟の創始者であるジグジット会長 (元 在京モンゴル大使館職員) と良好な信頼関係を築いており、会員の立場を尊重し、焦ることなくじっくりと活動を行っている様子であった。

(3) 合気道協会 (ウランバートル)

訪問隊員 : 川上雅之隊員 (11/3、合気道)

同配属先へは 1994-96 年に初代隊員が派遣され基礎的な指導にあたっていたが、その後協会の存続が危うくなったため、派遣が一時見合わされていた。近年、同協会の組織整備がなされ受入体制が整ってきたことから、2000 年 4 月に川上隊員が 2 代目隊員として派遣された。同隊員は、前任隊員の成果を受け継ぐとともに、会員が持続的に合気道の稽古に取り組むにはどうすればよいかを常に念頭に置きつつ活動を進めており、生徒からも大変慕われているようであった。

(4) 第 23 中学 (ウランバートル)

面談者 : バイガル校長

訪問隊員 : 大泉和久隊員(12/1、日本語教師)、佐藤美香隊員(12/1、日本語教師)

校長より同校の日本語教育の経緯と現況について話を聞いた。

同校は 1957 年に設立された 6 年制中学・高校 (設立時は 7 年制) で、当初は全ての授業がロシア語で行われていた。しかしながら、市場経済への移行に伴いロシア語だけでは不十分であるという認識が高まり、1989 年より日本語教育が始まった。JOCV は 1992

年から受け入れているが、現在では日本語教育が同校の特長となり入学競争率は年々高くなっている。配属先は、これまでの日本語教育の成果を今後は他の学校にも伝えていきたいと考えており、実際、2名のカウンターパートは来年から第24中学で日本語を教えるための準備をしているとのことである。

同校のように、歴代の隊員活動の成果が徐々に波及し、ひいては当国全体の日本語教育レベルの向上に寄与していくことは、JOCV事業の成果としても大変有意義なものである。当国においては日本語学習の需要が高いことから、引き続き日本語教師が主要職種となると考えられるが、長期的な視点で派遣を考える場合に、同校のケースは一つのモデルとなるであろう。

(5) 音楽舞踊学校 (ウランハートル)

面談者：ナランフー校長

訪問隊員：川辺正人 SV (200.11.～、ピアノ調律)

同校は、1937年に設立されたモンゴル唯一の音楽専門家養成学校であり、現在はピアノ、管楽器、弦楽器、クラシックバレエ、民族舞踊等の30の専攻科を有する。学校長からは、モンゴルではピアノ調律師がほとんどいないため、川辺SVの仕事がモンゴル全体の音楽分野に果たす役割は大きいとの評価があった。今回のSV要請はモンゴル人技術者の育成が目的であり、同校の学生の中から3-4名のピアノ調律師を要請しようと考えているとのことである。

現在の問題点としては、同校長、川辺SVともに、修理部品及び工具を入手することが困難であるために、修理できないピアノが何台もあることを挙げた。なお、同校長からは、①活動期間の延長(約1年間)の可否、②機材援助の可否、③管・弦楽器修理の専門家派遣の可否について打診があったため、当方より、①川辺SVの意向と健康診断の結果によっては延長も可能であるが、明確な延長計画を学校側から提出することが必要であること、②機材は原則としてモンゴル側が用意するものであるが、入手困難で且つ必要不可欠である場合には支援の可能性もあること、③管・弦楽器修理の専門家をリクルートできるか確約はできないが、必要であれば次回募集にかけることは可能であることを回答した。

(6) ダルハン県水道管理局

面談者：エルベグバイヤン局長

訪問隊員：八陣知広隊員 (10/3、水質管理)

同配属先は、1965年に設立されたインフラ開発省直属の組織であり、ダルハン県における上水供給と下水処理を行っている。隊員が活動している下水処理場は管理局より約

5km 離れた郊外にあり、現在、70-80 名の職員が勤務している。

同隊員は、主に下水の微生物処理化のための事前研究と水質分析技術の指導にあたっている。試薬が少ない等、業務上の問題は多くあるものの、同隊員は冷静かつ客観的に状況を判断し、語学力を生かしてモンゴル語の微生物検索表や処理状態による微生物分類表を作成、配属先の高い評価を得ていた。

(7) 治療保育園 (ダルハン)

面談者 : ツェツェグマー園長

訪問隊員 : 山下和美隊員 (12/2、幼稚園教諭)

1993 年設立、現在 7 クラスに 750 名の園児 (0-8 歳) が在籍、38 名のスタッフが勤務している。体の弱い子供や、貧困家庭の子供、親のいない子供もおり、園では就学前教育のほかに医師や看護婦の指導のもと治療・リハビリも行っているほか、全寮制のクラスも 1 クラス設置している。

同保育園では、山下隊員の前任 (10 年度 2 次隊高橋隊員) が隊員支援経費で遊具や柵の設置、植樹を行っており、山下隊員にも同様の期待が大きいように見受けられた。また、語学力の面でも、赴任後間もない山下隊員をどうしても帰国直前の前任隊員と比較しがちな様子であったため、団長より、山下隊員の活動を気長に支援いただくよう園長に依頼した。園長の話では、山下隊員は体操や音楽が大変上手であるため、言葉に慣れるまではそうした活動を重点的に行ってほしいと考えているとのことであり、一定の理解は得られているようであった。

(8) ダルハン工業大学

面談者 : ハグワスレン学長

訪問隊員 : 黒木英明隊員 (10/3、電気機器)

同校は、工業を専門とする国立の短期大学である。学長からは、隊員のこれまでの活動について、C/P に対する指導や研究室の整備を例に挙げ、同隊員のように当分野に最適で技術力の高い人材が派遣されたことに感謝している旨の発言があった。市内の製鉄所の職人がわざわざ訪ねてきて、同隊員に指導を仰ぐこともあったようである。

鉱山学科からは、鉱物の加工分野で隊員を新規に派遣したいと打診されたが、実際に当該教室を訪ね加工製品を見た限りでは、日本では当該分野での技術がほとんどなく、協力隊員が同分野で協力できる可能性は低いと判断される。黒木隊員には、JICA モンゴル事務所ともよく相談して要請を上げるよう伝えた。なお、黒木隊員は、JICS より供与された機材の使用・管理方法指導のため、任期を 2 ヶ月間延長する予定である。

(9) ダルハン総合病院

面談者 : バヤスガラン院長

訪問隊員 : 河野由佳隊員 (10/3、臨床検査技師)

院長からは、2年間の河野隊員の活動を振り返り、同隊員の真面目で熱心な仕事への取り組み姿勢を見て、他の職員がそうした態度を見習うようになってきたことに感謝したいとの発言があった。

同病院へは、12年度3次隊で後任隊員が派遣される予定であるが、同病院では、河野隊員の時の経験を踏まえて、どのような点に留意して新隊員を受け入れるべきか関係者とも話し合い、準備をすすめているようである。

(10) ダルハン県第4幼稚園

面談者 : チョローンバト園長

訪問隊員 : 照井吾子隊員 (11/3、幼稚園教諭)

配属先は、1961年に設立されたダルハン県で最も古い幼稚園であり、現在2-7歳の幼児(12クラス)を教員25名が担当している。同幼稚園は、幼少時から「労働を厭わない精神を身につける」ことを目標として、編み物、ダンス、歌の指導に力を入れており、1993年には国の模範幼稚園に指定された。

同隊員は園児にダンスや折り紙を教えており、園長は、日本の就学前教育をカウンターパートに指導してくれることについて高く評価していた。

2-4 その他関連機関訪問

(1) UNDP モンゴル事務所

今般、UNDPのIT関連プロジェクトの一環として、モンゴルにおいてICT (Information Communication Technology) を有効活用し人々のエンパワーメントを図ることを目的としたプロジェクトが実施されることとなった。具体的には、人々に情報通信技術を移転し能力向上を図ったり、また政策面でのアドバイスを通して当国の情報通信分野そのものの環境整備を行ったりすることが想定されている。

当該プロジェクトの資金38万ドルが日本政府の拠出金であることから、UNDP モンゴル事務所では、このプロジェクトに対する日本人 UNV (システムエンジニア) の派遣を希望している。今回の意見交換では、協力隊のOB/OGの中から適切な人材を派遣できないかとの打診があった。当初予定では2001年1月にプロジェクトを開始する予定であっ

たが、メンバーが揃い次第、開始したいと考えている。なお、派遣希望人数は 4-5 名、ビジネスのバックグラウンドを有する人物であればなお可とのことである。また、事務所長からは、付加的に JOCV がこのプロジェクトに携わることも大歓迎であるとのコメントが得られた。

先方の要望に対し、当方からは、JOCV の UNV サポートプログラムを通して協力隊 OB/OG に呼びかけ、人材をリクルートすることは可能であり協力したい旨を回答した。

(2) サイハンセテゲル義肢装具製作所

昨年 12 月に財団法人ナイスハート基金より、同製作所への義肢製作隊員派遣の可否について打診があり、今回はその可能性を検討するために同製作所を訪問した。

同製作所は、1998 年にナイスハート基金の協力のもと開設された独立採算の機関であり、現在、所長のほかに 2 名の技術者が勤務している（うち 1 名は日本で研修中）。モンゴルでは落馬や凍傷、交通事故で手足を損傷するケースが多く、現在把握されている障害者の数は全国で約 6000 名、さらに年間約 250-300 名の割合で障害者が増加しているとの報告がある一方で、義肢装具の製作機関は、保健省管轄下の国営工場と同製作所の 2 ヶ所しかない。さらに、国営工場で用いられている技術は 1950 年代のロシアの技術であり、またサイハンセテゲル製作所でも年間 80 名分の義肢しか製作できないために、提供できる義肢装具の数は絶対的に不足している。同製作所としては、貧困層には無料でサービスを提供したいと考えているが、経済的に大変難しい状況である。

なお、同製作所は、ニンジン財団という援助基金（NGO）を受け皿とすることを条件に、これまで隊員派遣にかかる要請を再三にわたって保健省に提出してきたが、承認は得られなかった。ガンボルト所長の話では、昨年夏に政権が交替したので、再度要請を提出する考えでいるとのことであった。

当分野において先進技術を有する我が国が協力することの意義は大きく、保健省の承認さえ得られれば、積極的に協力したいと考える。

2-5 提言

(1) JOCV の地方展開

関係各省との協議や配属先訪問の結果、JOCV の地方展開に対する先方の期待は大きく、また潜在的ニーズも高いことが確認された。

昨年 7 月に発足した新政権は、政府綱領の一つとして都市部と地方の経済格差・生活水準格差の解消を掲げており、さらに地方ごとの具体的な開発目標をも定めている。これらの実現に向けて JOCV が協力することの意義は高く、既に派遣実績のあるダルハン、エ

ルデネットや、13年度1次隊で派遣が開始されるスフバートルに加え、今後はその他の地方都市についても積極的に派遣する方向性で検討したい。ただし当面は、生活環境や緊急時の対応を考慮し、物資の供給状況や交通の便が良い鉄道沿いの地方都市に限定すべきであると思料する。

なお、都市部の配属先では技術レベルも一定以上に達しており、実際、隊員からはJOCVではもはや対応しきれないとの声も聞かれていることから、都市部のこうした配属先（大学等）についてはSV派遣で対応することとし、JOCVは、技術レベルに改善の余地があり、また要請も多い地方都市への派遣に徐々にシフトしていくことが妥当であると考え

(2) SVの派遣拡大

モンゴルでは、昨年11月より3名のSVがウランバートルにて活動中である。冬季には零下30-40度まで冷え込むことから健康上の問題も懸念されたが、住居、職場共に暖房施設が整っており、また外気に直接接触れる機会も少ないことから、寒さについてはほとんど問題なく、3名の方とも今のところ順調に活動を進めておられるようであった。モンゴル側のSVに対する評価は総じて高く、今後も更に派遣規模を拡大してほしい旨の要望も聞かれた。

しかしながら、今後の派遣にあたって懸念されるのは、やはり健康管理と語学の問題であろう。

前者については、モンゴルは医薬品が不足しており医療レベルも近隣他国に比して低いこと、冬季の寒さが極めて厳しいことから、人選にあたっては健康面に特に慎重を期する必要がある。また、赴任に際しても、事前にモンゴルの医療事情を具体的に説明し、赴任後の健康管理に対する適切な助言を行うことが求められよう。

語学の問題については、一部の配属先（大学等）を除き、基本的に英語が通じないと考えるべきである。モンゴルでは日本語学習者が多いことから、現在活動中の川辺SVのように、（現地業務費で）日本語-モンゴル語の通訳を備え、円滑に活動を進めることも十分に可能である。特に、日本語教師隊員の教え子の日本語能力を活用することができれば、双方にとってよりよい効果が得られるのではないかと思料する。

(3) 部品調達ルートの確立

JOCV、SVともに活動上の問題となっているのが、機械の部品や材料の不足であった。JOCVについては、特に機械分野の隊員より、良質な機械部品がモンゴル国内ではどうしても入手できないことから、中国まで出張して調達できないかとの打診があった。また川辺SVの配属先である音楽舞踊学校では、ピアノ線を製作する機械は持っているにもかかわらず、材料の銅線が調達できないために、何台もの壊れたピアノを修理できないという状況であった。いずれの場合も、隊員の出張や本邦購送で入手することは不可

能ではないが、今後も配属先自身が調達し管理していかなければならないことを考えると、持続的に近隣国から材料や部品を調達する仕組みを確立させることが第一である。

JOCV や SV が活動している間は、こうした今後の方向性を見据えつつ、任国外研修旅行を活用して調達部品の調査をし、実際には第三国調達で対応するなどの工夫をすることが求められよう。特にモンゴルの場合は、隣国である中国からたいていの物は入手することが可能であるため、この方法を有効に活用できると考える

第3章 調査結果（中国）

3-1 主な面会者

(1) 国家科学技術部

苑 曙光	国際科技合作司 副司長
葉 冬柏	国際科技合作司 アジア・アフリカ処 処長

(2) 湖南省科学技術庁

魯 華	国際科技合作処 処長
王 国富	対外科技交流中心 主任
怡 彬	国際科技合作処 プログラムオフィサー

(3) 四川省科学技術庁

王 守儀	副主任
梁 晋	国際合作処 処長
頼 建一	国際合作処 副処長

(4) 技術協力セミナー出席の各省関係者は付属資料4. の通り。

(5) 日本国大使館

谷野 作太郎	特命全権大使
杉本 信行	公使
田畑 一雄	一等書記官
島田 順二	一等書記官

(6) JICA 中国事務所

櫻田 幸久	所長
大石 千尋	次長
羽田 十三男	調整員
市橋 美帆	調整員
伊坂 恭子	調整員
家田 豊	調整員
坂本 毅	調整員

3-2 関係機関との協議結果

2月19日及び2月26日～2月28日の4日間、関係機関を訪問しSV派遣を含む協力隊事業に関し意見交換を行った。協議内容の概要は以下の通りである。

(1) 日本国大使館

団長より、SVの派遣開始、JOCV及びSVの地方展開、教員特別参加制度の開始といった中国における最近の協力隊事業の動向について紹介をした後に、事業全般について意見交換を行った。時間の都合上具体的な話まではできなかったものの、SVの新規派遣や中国政府の国策に合致した西部への活動展開という基本的方針について、大使館側も当方と同じ姿勢であることが確認された。

(2) 四川省科学技術庁

技術協力セミナーに先立ち、櫻田 JICA 中国事務所長も在席のうえ同省科学技術庁の副主任と打ち合わせを行った。団長より SV の新規派遣と JOCV の地方展開について当方の方針を説明したところ、同副主任からは、これまでの JOCV の貢献は大変大きいですが、分野によっては技術的にまだ経験が浅いこともあったため、年長者のボランティア派遣には是非期待しているとの発言があった。

また、(SV、JOCV の別を問わず) 四川省の具体的なニーズとしては、同省では 2010 年までに揚子江上流の生態環境保全を行う計画を持っていることから、育苗、農業灌漑システム、環境教育等の分野での協力を期待しているとのことであった。このほか、同副主任の話からは、花卉の品種改良や乳牛の繁殖技術向上、観光業の振興、国営企業の経営管理等についても、潜在的なニーズがあると判断された。

四川省は、平均年収が沿岸部の 2 分の 1 にも満たず、中国全国の中でも最も貧困な地域の一つとして数えられる省である。その一方で、同省は交通の便も良く豊かな天然資源を有することから、上述の分野で JOCV あるいは SV が協力し、同省で一つの開発モデルを作ることは可能であると思料する。

3-3 隊員活動現場視察

(1) 昌平区日中友好果樹園

訪問隊員：生越大地隊員（12/2、果樹）

配属先は、北京郊外にある昌平区科学技術庁が運営する観光果樹園であり、園内には

約 1 万 7000 株の果樹が植栽されている。昌平区は青森県板柳町と友好関係を結んでおり、同果樹園を通して農業交流を行っているとのことであった。

訪問した日は休日であったため配属先側との協議の場は持てなかったものの、同隊員は既に配属先スタッフとも良好な関係を築いているようであった。またプレゼンテーション方法に気を配りつつ先方に分かりやすく果樹の状態を説明するなどの工夫をしており、赴任してまだ 2 ヶ月とは思えないほどであった。

(2) 長沙市第 7 中学

面談者：楊校長、趙副校長ほか

訪問隊員：安藤美保隊員(12/1、日本語教師)

同校は、湖南省の職業校の中で唯一日本語クラスを開設している。今年の夏には、日本語クラスの学生が初めて卒業する予定であるが、後述の長沙大学へ優先的に入学できる推薦枠があり、今年は約 20 名が希望している。また、トップクラスの 5 名は日本への留学を希望しているとのことであった。

安藤隊員は現在 2 年生のクラスを受け持っているが、C/P との人間関係も良好であり、校長は同隊員の仕事をする姿勢は教師のモデルであると評価している。学校側からは、継続的に後任を派遣してほしい旨の強い要望があったが、まずは中国人日本語教師の育成とレベルアップを念頭に置きつつ活動を進め、計画的な派遣を行うことが必要であると考えた。

(3) 森林植物園

面談者：林業庁 劉副庁長、夏園長ほか

訪問隊員：山野井寛成隊員(12/2、花き)

同植物園は、湖南省林業庁及び科学技術庁直轄の国家森林公园として 1985 年に開園、現在では野生動物救急保護センターとしての役割も担っている。敷地面積は 140ha と省内最大であり、園内には樹木約 2000 種類、花き約 700 種類が植栽されている。これまで同園では樹木の研究が多かったが、市民の生活が豊かになったことから花きの需要が急速に高まってきたため、同園としても今後は花きの栽培・研究に力を入れたいと考えているとのことであった。

同配属先は先進技術の導入に大変意欲的であるが、反面、結果を急ぎすぎるきらいがあるように見受けられた。隊員支援経費を用いてのハウスの整備に関しても再三強い要望があったが、同隊員は配属後間もないこともあり、今後気候条件や栽培環境も見極めながら当地に適した方法で慎重に対応することが必要である旨を先方に説明し、理解を得た。

(4) 長沙大学

面談者：李峻学長ほか

訪問隊員：筒井千絵隊員(12/2、日本語教師)

同大学は3年生の職業専門大学であり、日本語科は1987年に設立された。同大学では、より高いレベルの日本語の人材を育成することを目的として、上述の第7中学の卒業生を優先的に入学させる制度を導入したばかりである。今後第7中学と長沙大学の隊員同士で連携をとることで、長期的には地域の日本語教育の発展に貢献することもできよう。

筒井隊員はまだ赴任したばかりではあるが、既に2月中旬より授業を担当しており、教材も自分なりに工夫しながら和気藹々と授業を進めていた。同隊員は、まだC/Pと一部情報を共有できていない点を問題意識として持っていたが、受入体制は基本的には整っているため、これから徐々に解決できるものと思料する。

(5) 長沙市体育学校

面談者：張声琳校長、陳コーチほか

訪問隊員：土岐典広隊員(11/2、水泳)

同校は1956年に設立された体育専門の学校であり、過去1000人以上の選手を国家・省・大学のチームに送り出してきた（優秀選手は省のチームに引き抜かれる）。シドニーオリンピック出場選手のうち、3名は同校の卒業生であった。

土岐隊員は、これまで100名以上の子供を対象に水泳指導を行ったほか、C/Pに対する講習や日本の水泳教本の翻訳も精力的に行ってきた。配属先からは、2002年の湖南省第9回体育大会において金メダル一つと銀メダル二つを獲得することを目標として与えられているが、同隊員はむしろそれを楽しみながら活動しているようであった。

(6) 攀枝花市体育運動委員会

訪問隊員：富田政行隊員（11/2、野球）

富田隊員は、2002年に開催される大会での優勝を目標に、攀枝花市において子供達の野球チームの指導をしている。この他にも、成都市において四川省体育委員会の四川代表チームのコーチも兼任しており、攀枝花市と成都市を往復する忙しい日々を送っている。道具不足等の問題に直面しつつも、同隊員はその解決に向けて熱心に取り組んでおり、監督、コーチ、四川省体育委員会とも良好な関係を築いている様子であった。

3-4 技術協力セミナー結果

3月1～2日の2日間に亘り、中国四川省成都市において地方の科学技術庁を対象とする技術協力セミナーが開催された。これは、JICA 中国事務所と中国科学技術部（援助受入窓口機関）の主催により、地方の窓口機関である科学技術庁の担当者を対象に JICA 事業の説明・紹介を行うとともに、西部大開発を踏まえた今後の協力のニーズと方向性を各担当者と協議することを目的として開催されたものである。

(1) 団長による事業説明

当セミナーにおいて、団長より JOCV 事業の現況と展望ならびに SV についての事業説明を行ったところ、説明終了後、SV 事業に関して出席者よりいくつかのコメント・質問が出された。質疑応答の概要は以下の通りである。

1) 活動に対する期待

科学技術部国際協力局 苑曙光副局長より、現在中国では、改革開放政策の積極的な推進に伴い国営企業改革が喫緊の課題となっているが、特に企業運営や経営管理のエキスパート不在が問題となっていることから、SV には当分野における協力を是非依頼したい旨の発言があった。

これに対しては、団長より、SV の応募者には商社 OB や中小企業の社長など当分野のエキスパートが多く存在することから、当該スキームで有意義な協力ができるものと考えている旨を回答した。

2) 派遣にかかる要望

同副局長より、現行のような（中国側）要請提出→（日本側）募集・リクルート→派遣というシステムでは、要請提出から派遣までに時間がかかるため、逆に日本側から応募者情報を事前に提供し、中国側が受け入れ先を検討する方法は実現できないかとの打診があった。

これに対しては、団長より、募集選考の結果適格者と判断された応募者は該当する要請がなくても「有資格者」として登録されるため、要請を接受した時点で既に候補者が存在する可能性もあること、またリクルートについては、約 280 ある友好都市関係（例：四川省と広島県、重慶市と広島市）をうまく活用して速やかに応募者を確保することも可能である旨を提案した。

(2) 団員による事業説明

上記(1)に続いて、団員（国担当）より、JOCV の要請の流れと手続き上の留意点なら

びに平成 13 年春募集より開始される「現職教員特別参加制度」の紹介を行った。同制度には学期途中での帰国というデメリットはあるものの、派遣される隊員が現職教師であるため豊富な実務経験を有していること、年間行事計画の策定等の学校経営にも長けていること、帰国後も隊員の所属先である学校と長期的な友好関係が築けることをメリットとして挙げたところ、セミナー終了後に湖南省科学技術庁の担当者より同制度についての質問があるなど、同制度について関心を持っている様子が窺えた。

3-5 提言

(1) 中西部地域への派遣拡大

中国政府は、東西経済格差の解消を目指し、西部大開発を国家政策として掲げている。一方、現在の隊員の分布は湖南省・広西壮族自治区以東に集中しており、西部に関しては、新疆ウイグル自治区にシニア隊員 1 名、四川省と貴州省にそれぞれ一般隊員が 1 名活動しているのみであり、甘肅省、青海省、雲南省にはここ数年派遣実績がない。

今回の技術協力セミナーに先立ち中国事務所が中西部各省を対象に行ったアンケートでは、回答のあった 7 省（貴州、四川、湖南、広西、寧夏、湖北、新疆）全てが「協力隊要請の可能性はある」と答え、具体的な協力分野として、特に農業、保健衛生、教育文化を挙げた。

かかる状況を鑑みるに、中西部地域への派遣拡大にかかる潜在的ニーズは大きいことは明らかであり、当面は四川省を拠点として徐々に国家科学技術部及び各省科学技術庁と協議を進め、具体的な派遣計画を立案することが求められよう。

(2) 西部地域への派遣拡大に伴う支援体制の強化

上記(1)のように今後は中西部地域への派遣を拡大したい考えであるが、現状では拠点が北京の中国事務所のみに限られることから、効率的な要請開拓や隊員活動支援を行う観点からも、足がかりとしての拠点を中西部に設置することが必要であると判断される。

具体的な派遣形態（受入機関、TOR 等）については先方窓口機関とも協議をしつつ今後固めていく必要があるが、平成 13 年度秋募集～平成 14 年度春募集へ向けた要請開拓を目標に、今年 7 月～9 月を目処にシニア隊員（プログラムオフィサー）を派遣したいと考える。なお、設置場所としては、現時点では、交通の便が良く、また隊員派遣の潜在的ニーズが高い四川省の成都市が候補地として挙がっており、隊員連絡所の設置と併せ中西部展開の拠点とすることが望ましい。

(3) SV 派遣について

調査全体を通じて、SV 事業に対する中国側の関心は高く、各分野において需要も高いことを確認した。上記(1)で述べた農業分野についていえば、隊員の技術ではもはや対応できず合格者の確保が難しい要請もあるため、JOCV に替わって SV を派遣することができればより効果的な協力が可能になると思料する。また、国営企業改革が引き続き大きな経済的課題となっている中国にあっては、モンゴルと同様、企業運営・経営管理分野の指導者が求められている。派遣形態に関しても、個別に派遣するだけでなく、複数での SV 派遣や JOCV を交えたグループでの派遣等、多様な方法と成果が期待できよう。

なお、SV の派遣開始にあたって留意点は以下の通りである。

1) SV 事業の周知について

上述のセミナーにおいては、事務所所員より説明のあった「国民参加型専門家派遣制度」と SV 事業の違いについて質問があった。また、中にはシルバーボランティアと混同している参加者（特に地方科学技術庁）も散見されたことから、SV 事業の内容と特長について広く理解を促すことが重要であると思われる。

2) 派遣体制の工夫について

セミナーにおける発言やアンケート調査の結果からも明らかなように、中国側はボランティアのタイムリーな派遣を希望している。については、有資格者の迅速な派遣を図るほか、友好都市関係を活用した的確な人材の確保等、派遣体制の工夫を検討する必要がある。

3) 語学の問題について

中国では（特に地方においては）、英語が通じることはほとんどないと考えて良い。他の言語に比べれば中国語学習者は比較的多いと思われるが、中国語未習者の派遣に際しては、日本語教師隊員の教え子を通訳として備上するなど、JOCV 事業との相互補完的な体制作りも検討できると思料する。

以上

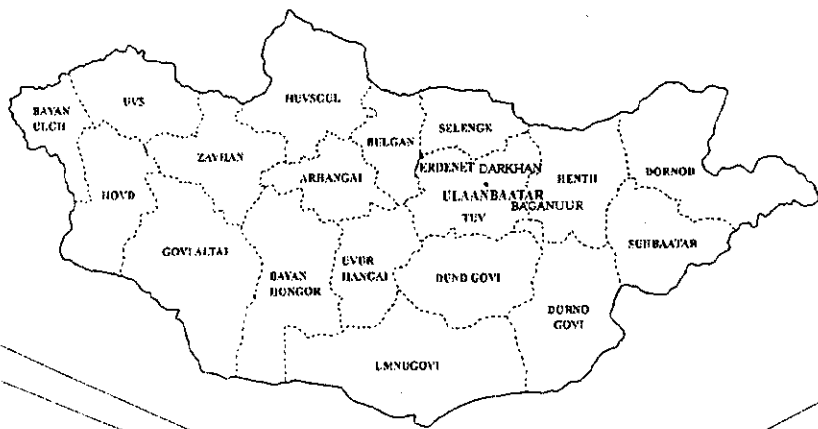
附属資料

1. モンゴル隊員配置図（2001年3月1日現在）
2. 中国隊員配置図（2001年3月1日現在）
3. 中国隊員派遣現況・派遣実績（2001年3月1日現在）
4. 中国成都市技術協力セミナー概要

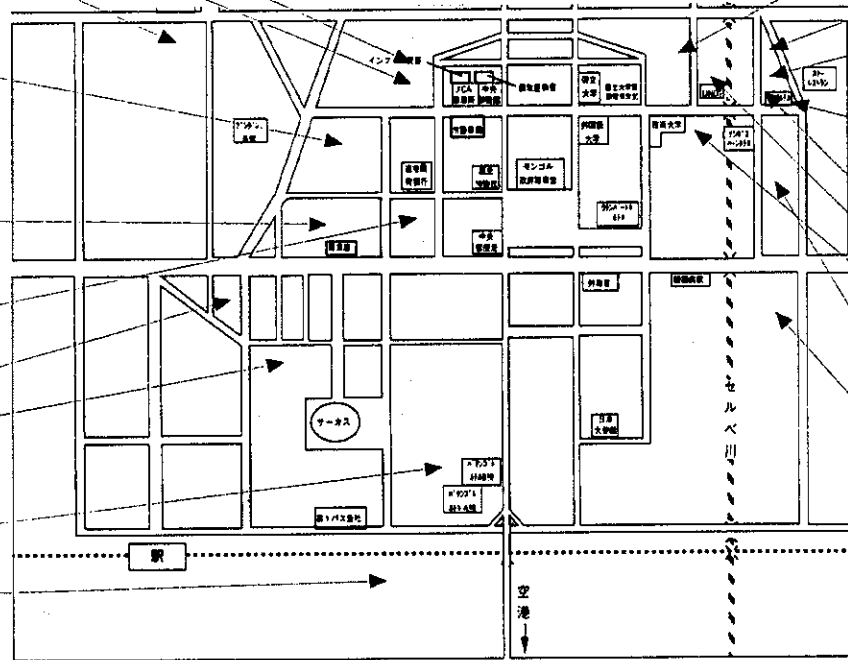
ウランバートル市JOCV隊員配置図

2001年3月1日現在

JICAモンゴル事務所
 JOCV派遣隊員数：47名（男子22名、女子25名）
 JOCV派遣隊員累計：114名（男子54名、女子60名）
 SV派遣隊員数：3名（男子3名、女子0名）
 SV派遣隊員累計：3名（男子3名、女子0名）



- 11/1 小泉 美智子 建築 ~2001.07.15
- 12/1 広瀬 哲子 視聴覚教育 ~2002.07.13
- 10/3 尾上 崇 森林経営 ~2001.04.08
- 11/2 北 基夫 木工 ~2001.12.09
- 12/2 橋本 知佳 日本語教師 ~2002.12.10
- 12/2 大坪 幸子 幼稚園教諭 ~2002.12.10
- 10/3 中野 佳恵 陶磁器 ~2001.04.08
- 11/3 河野 恵里 森林保護 ~2002.04.06
- 12/1 宮原 啓子 幼稚園教諭 ~2002.07.13
- 12/1 大泉 和久 日本語教師 ~2002.07.13
- 11/3 川上 雅之 合気道 ~2002.04.06
- 11/3 小名川 玲子 美術 ~2002.04.06
- 11/1 坂月 恵里 都市計画 ~2001.07.15
- 11/2 大槻 秀樹 空手 ~2001.12.09
- 10/3 大沢 晴美 放送 ~2001.04.08
- 11/3 宮原 崇之 都市計画 ~2002.04.06
- 12/1 佐藤 美香 日本語教師 ~2002.07.1
- 12/1 奥岡 奈津子 日本語教師 ~
- 2002.07.13
- 11/2 小林 俊元 植林 ~
- 2001.12.09

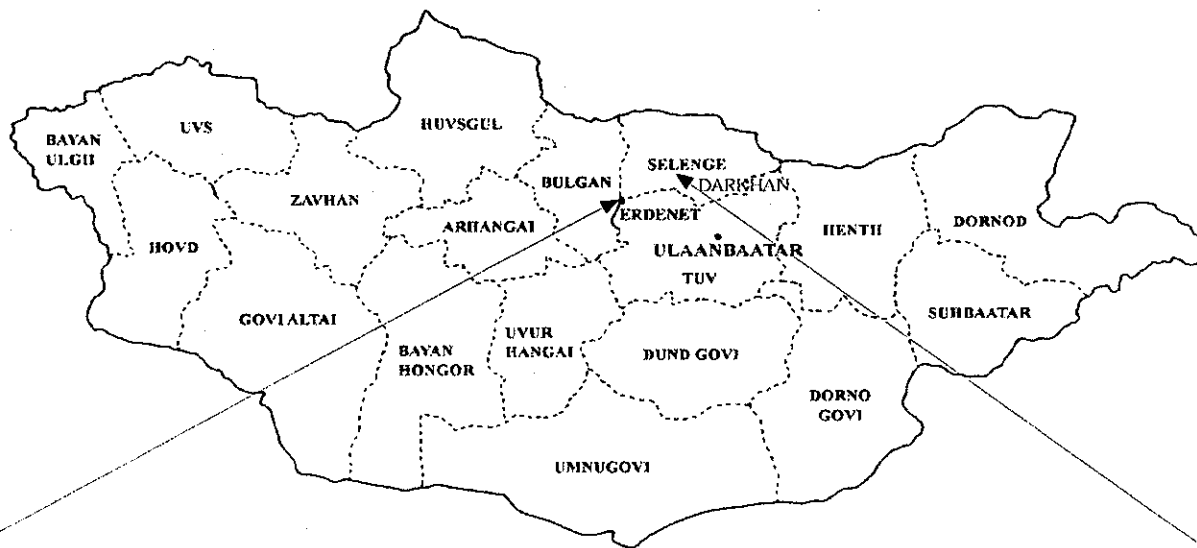


- 11/3 久保 健 バスケットボール ~2002.04.06
- 11/1 長浜 哲人 文化人類学 ~2001.07.15
- 12/2 林 君彦 デザイン ~2002.12.10
- 11/2 森木 尚聖 柔道 ~2001.12.09
- SV隊員 鏡原 信也 品質管理 ~2001.11.16
- SV隊員 川辺 正人 ピアノ調律 ~2001.11.16
- SV隊員 吉武 紳吾 経営管理 ~2001.11.16
- 12/1 高谷 勝也 電子工学 ~2002.07.13
- 11/1 近藤 智則 電気機器 ~2001.07.15
- 12/2 大澤 優子 日本語教師 ~2002.12.10
- 12/2 清水 広美 婦人子供服 ~2002.12.10
- 11/3 高橋 洋子 美容師 ~2002.04.06
- 11/1 関 博文 体操競技 ~2001.07.15

地方JOCV隊員配置図

2001年3月1日現在

JICAモンゴル事務所
 JOCV派遣隊員数：47名（男子22名、女子25名）
 JOCV派遣隊員累計：114名（男子54名、女子60名）
 SV派遣隊員数：3名（男子3名、女子0名）
 SV派遣隊員累計：3名（男子3名、女子0名）



10/1	竹田 慈生	バドミントン	～2001.07.16
11/3	松村 武史	バレーボール	～2002.04.06
12/2	亀山 明生	バドミントン	～2002.12.10

10/3	八陣 知広	水質管理	～2001.04.08
10/3	福森 美樹	窯業	～2001.04.08
10/3	河野 由佳	臨床検査技師	～2001.04.08
10/3	黒木 英明	電気機器	～2001.06.08
11/1	中尾 美樹	技術科教師	～2001.07.15
11/2	久良木基晃	機械工学	～2001.12.09
11/3	森本 大	製菓製パン	～2002.04.06
11/3	池谷 広美	手工芸	～2002.04.06
11/3	照井 吾子	幼稚園教諭	～2002.04.06
12/1	塚田 史子	日本語教師	～2002.07.13
12/1	山口 美絵	家政	～2002.07.13
12/2	山下 和美	保育士	～2002.12.10
12/2	泊 直美	歯科技工士	～2002.12.10

在中国青年海外協力隊配置図

国際協力事業団 中華人民共和国事務所
 2001年03月01日現在 一般隊員 69名 (男子17名 女子52名)
 (派遣中) ★シニア隊員 1名 (女子1名)

●電話回線利用
 ▲携帯電話利用

石家庄 (Shi Jia Zhuang)

小川 優美 (00/07) 作業療法士 河北省人民病院康復中心●
 银川 (Yin Chuan)

鴨海 佳恵 (99/04) 日本語教師 華夏大学●
 武汉 (Wu Han)

増田 富子 (00/07) 看護婦 武漢大学中南医院●
 藤田 敦子 (00/12) 日本語教師 武漢外国語学校●
 黄石 (Huang Shi)
 大和 みゆき (00/07) 日本語教師 湖北師範学院●

黄冈 (Huang Gang)

茂川 佳子 (00/04) 看護婦 黄冈衛生学校●
 重庆 (Chong Qing)

星野 抄麻 (99/12) 看護婦 重慶医科大学児童医局●
 长沙 (Chang Sha)

森村 華代 (99/07) 日本語教師 中南大学●
 齊藤 綾 (99/12) 看護婦 国家衛生部附胆腸外科研究中心●
 土岐 典広 (99/12) 水泳 长沙市体育学校●
 白石 久美 (00/07) 日本語教師 湖南大学●
 安藤 美保 (00/07) 日本語教師 长沙市第七中学校●
 山野井真成 (00/12) 花老 湖南省森林植物园●
 柳井 千恵 (00/12) 日本語教師 长沙大学●

张家界 (Zhang Jia Jie)

関根 香実 (99/12) 日本語教師 武陵大学●
 福島 一成 (00/04) 映像 武陵大学●▲
 長山 由美子 (00/12) 日本語教師 武陵大学●

株洲 (Zhu Zhou)

新池 真子 (99/07) 幼稚園教師 株洲市婦人児童活動中心●

湘潭 (Xiang Tan)

大井 健 (00/04) 野菜 湘潭市岳塘区蔬菜局●
 池本 朋子 (00/07) 日本語教師 湘潭大学●

芷江 (Zhi Jiang)

芝原 圭 (00/07) 花老 湖南省芷江県民族職業中等専業学校●

攀枝花 (Pan Zhi Hua)

富田 政行 (99/12) 野球 攀枝花市体育運動委員会●▲

贵阳 (Gui Yang)

西野 聖 (00/07) 日本語教師 貴州大学●

桂林 (Gui Lin)

西谷 都 (99/07) 日本語教師 桂林市旅遊高等専科学校●
 林 陽子 (99/07) 幼稚園教師 桂林市七星幼稚園●
 大滝智子 (99/12) デザイン 桂林市旅遊高等専科学校●
 吉本 美紀 (00/04) 看護婦 桂林衛生学校●▲
 寺本 将也 (00/07) 果樹 桂林市霊糧場●
 二宮 伸子 (00/07) 幼稚園教師 桂林第十五中学校●

百色 (Bai Se)

古田 真也 (00/04) 獣医師 広西百色農業学校●

柳州 (Liu Zhou)

小川 明美 (00/07) 理学療法士 柳州市人民病院●
 窪田 兼子 (00/07) 幼稚園教師 柳州市直屬機關幼稚園●

甘旗卡 (Gan Qi Ka)

黒岩 幸子 (00/07) 日本語教師 内蒙古甘旗卡第二高級中学校●

呼和浩特 (Hu He Hao Te)

長岡 智絵 (00/12) 日本語教師 内蒙古智力引進外国語培訓中心●

太原 (Tai Yuan)

坂本 慎子 (99/04) 日本語教師 太原市外国語学校●

大庆 (Da Qing)

黒岩 正人 (00/12) 柔道 大慶市体育運動学校●

哈尔滨 (Ha Er Bin)

阿部 容子 (99/04) 日本語教師 ハルビン理工大学●
 戸崎美登利 (99/07) 日本語教師 黒竜江大学●
 佐竹 千草 (00/07) 日本語教師 ハルビン工程大学●

长春 (Chang Chun)

田賀 真美子 (99/04) 日本語教師 吉林大学●
 東 和枝 (99/07) 日本語教師 中国社日留学生予備校●
 濱野なな枝 (00/07) 日本語教師 長春外国語学校●

延辺 (Yan Bian)

酒本 幸子 (99/07) 日本語教師 延辺大学人文学院●
 高野 涼子 (00/07) 日本語教師 延辺龍井高校●
 原 照代 (00/07) 日本語教師 延辺和龍第三中学校●
 友真 新 (00/07) 日本語教師 延辺琿春市教師進修学校●
 河本 知子 (00/07) 日本語教師 延辺汪清県教師進修学校●

沈阳 (Shen Yang)

山口 智子 (99/12) 日本語教師 中国医科大学●
 臣川 元寛 (99/12) 日本語教師 遼寧中医学院●
 渡部真由美 (00/07) 日本語教師 沈陽市外国語学校●

营口 (Ying Kou)

市橋 文子 (00/04) 婦人子供服 营口市中日高級服装学校●
 若杉 英治 (00/07) 日本語教師 营口民井振興学校●▲

大连 (Da Lian)

吉田 幸恵 (00/07) 日本語教師 大連民族学院●
 ★飯野 命子 (00/12) 日本語教師 大連市金州区教師進修学校●

青岛 (Qing Dao)

高見 彩子 (00/12) 日本語教師 青島海洋大学●

唐山 (Tang Shan)

照屋ゆかり (99/12) 看護婦 唐山衛生学校●

北京 (Bei Jing)

生越 大地 (00/12) 果樹 昌平区科学技術委員会●

南京 (Nan Jing)

坂野 智絵 (99/07) 日本語教師 東南大学●

镇江 (Zhen Jiang)

多田 恵 (99/07) 幼稚園教師 鎮江市水陸寺巷幼稚園●

南昌 (Nan Chang)

鈴木 翼子 (99/12) 日本語教師 江西省旅遊学校●

开封 (Kai Feng)

戸野部芳江 (99/04) 看護婦 開封市衛生学校●

荆门 (Jing Men)

村上 真一 (99/07) 野菜 湖北業樹良種繁育荆门中心●

象州县 (Xiang Zhou Xian)

鈴木 綾 (99/12) 音楽 象州城關中学校●

南宁 (Nan Ning)

岩出 可奈 (99/04) 幼稚園教師 広西區直屬機關第二幼稚園●

天野 高次 (00/04) 野菜 広西農業学校●

下山 智洋 (00/04) 婦人子供服 広西紡織服裝設計研究所●

辻 亜由美 (00/04) 婦人子供服 南寧職業技術学院●

富岡 健 (00/07) 日本語教師 広西大学●

防城港 (Fang Cheng Gang)

八木恵美子 (00/04) 看護婦 防城港市人民病院●

北海 (Bei Hai)

磯野裕見子 (99/12) 看護婦 北海市杏湖衛生学校附属医院●

中華人民共和國 協力隊員派遣現況

2001年03月01日 現在
日本国際協力事業団 中国事務所

1. 協力隊員派遣数

派遣形態	派遣実績		派遣中隊員数	
	男性隊員	女性隊員	男性隊員	女性隊員
一般隊員	162	244	17	52
短緊隊員	2	1	0	0
シブ隊員	1	1	0	1
合計	165	246	17	53

85年10月 協力隊派遣協定締結 (E/N)

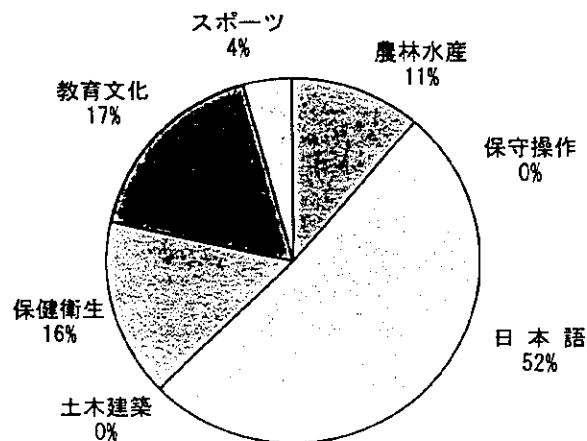
86年12月 4名派遣開始 (第一陣)

2000年12月 8名派遣 (第四十三陣)

3. 中国省、市、自治区別配置・・・70名
(17省区・2直轄市)

2. 協力隊員部門別派遣

農林水産	8	11%
加工	0	0%
保守操作	0	0%
日本語	36	52%
土木建築	0	0%
保健衛生	11	16%
教育文化	12	17%
スポーツ	3	4%



都市名	人数	都市名	人数
北京	1	重慶	1
江蘇	2	寧夏	1
黒龍江	4	湖北	5
吉林	8	湖南	14
山東	1	内モンゴ	2
遼寧	7	陝西	0
河北	2	広西	17
河南	1	江西	1
貴州	1	山西	1
四川	1	合計	70

中華人民共和國 隊員派遣実績

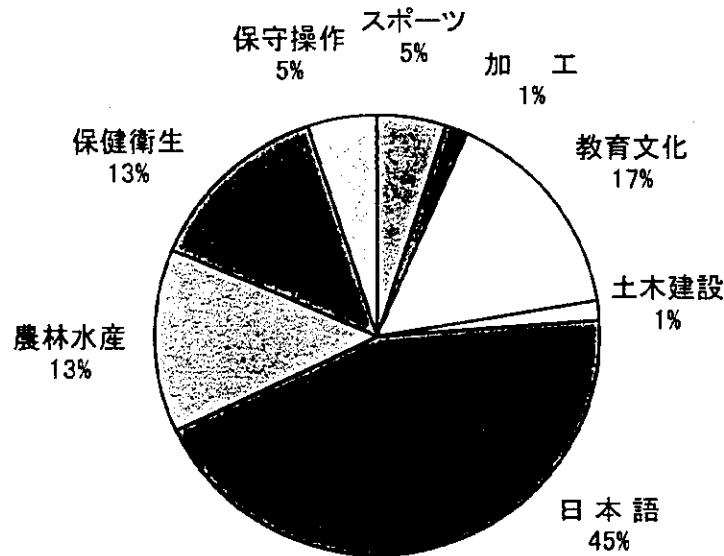
2001年03月01日 現在
日本国際協力事業団中国事務所

1・各年度協力隊員派遣実績

	86年度末	87年度末	88年度末	89年度末	90年度末	91年度末	92年度末	93年度末	94年度末	95年度末	96年度末	97年度末	98年度末	99年度末	2000年現在
活動中	8	26	44	41	53	61	77	72	66	56	53	71	70	69	70
帰国累計	0	0	7	25	45	65	82	116	157	188	221	244	270	310	341
派遣累計	8	26	51	66	98	126	159	188	223	244	274	315	340	379	411

2・協力隊員部門別派遣実績

スポーツ	21	5%
加工	6	1%
教育文化	66	17%
土木建設	5	1%
日本語	182	45%
農林水産	55	13%
保健衛生	55	13%
保守操作	21	5%



3・中国省、市、自治区別配置 (24省区・4直轄都市)

都市名	活動中	累計	都市名	活動中	累計
北京	1	23.5	江西	1	7
天津	0	21.5	寧夏	1	2
上海	0	5	湖北	5	21.5
重慶	1	5	湖南	14	42
吉林	8	30.5	福建	0	3
内モンゴ	2	14	四川	1	5
遼寧	7	71	陝西	0	7
河北	2	19	甘肅	0	1
河南	1	16.5	青海	0	3
安徽	0	8	広西	17	60.5
山東	1	8	新疆	0	2
浙江	0	8.5	山西	1	3
黒竜江	4	16	雲南	0	1.5
貴州	1	3	江蘇	2	3
			合計	70	411

地方科技庁（委）との技術協力セミナーの開催について

2001年2月27日

JICA中国事務所

1. 目的

国家科技部～地方科技庁（委）のラインを軸としたJICAベース技術協力は、開始以来20年あまりを経過しているが、西部大開発や10・5計画など、中国における新たな潮流や、わが国の対中援助再検討の動き等を背景に、今後地域の実情やニーズを的確に反映した効果的な協力案件の発掘・形成に務めることが求められている。こうした状況を踏まえ、地方科技庁（委）関係者のJICA事業を初めとするわが国の援助についての理解を深めると共に、関係者間の意見交換を通じ、今後の協力の方向性やニーズについて示唆を得ることを目的に地方セミナーを実施する。

2. 主催

- 国家科学技術部
- 国際協力事業団（JICA）中国事務所
- 日本国大使館（後援）

3. 参加予定者

3-1 中国側

- 西部開発政策重点地域14省区市科技庁（委）国際合作處長及び担当者
（重慶市、四川省、貴州省、雲南省、西藏自治区、陝西省、甘肅省、寧夏回族自治区、青海省、新疆維吾兒自治区、内蒙古自治区、広西壮族自治区、湖北省、湖南省） 各1～2名
- 国家科技部
苑 曙光 国際合作司副司長
葉 冬柏 国際合作司亜非處處長
蔡 志平 国際合作司司亜非處官員

3-2 日本側

- 日本大使館
杉本 信行 経済部長／公使 注1)
松尾 泰樹 経済部一等書記官 注2)
- JICA中国事務所
櫻田 幸久 所長
神谷 克彦 次長
堀江 聡 所員
川角 みのり 所員
羽田 一三男 青年海外協力隊調整員 注3)
市橋 未帆 青年海外協力隊調整員
劉 然 所員
李 瑾 所員
張 麗紅 所員
- JICA本部
金子 洋三 青年海外協力隊事務局長 注3)
丸山 鈴香 青年海外協力隊事務局海外第2課職員 注3)
- 四川省森林造成モデル計画（プロジェクト方式技術協力）
鹿島 春美 チーフアドバイザー 注4)
- 農業技術素旧システム強化計画（プロジェクト方式技術協力）
山梨 実 チーフアドバイザー 注5)

注1) 杉本公使は、3/1午後成都を離れる

注2) 松尾書記官は、3/1成都着、3/3帰京

注3) 金子局長、丸山職員、羽田調整員は3/2午前帰京

注4) 鹿島専門家は、西昌より出席する

注5) 山梨専門家は、3/2プロジェクト視察時に現地にて対応

注6) その他JICA事務所関係者は、3/2夕刻帰京

4. 開催期日、場所

- 月日 3月1日（木）～2日（金）（前泊を含め、2泊3日）
- 場所 四川省成都市 岷山飯店

4. 日程案

2月28日(水)	11:50	JICA関係者成都着(SZ4112/予定)、 ホテルチェックイン後、会場にてセミナー準備 〈神谷次長、李瑾所員は空港にて待機〉
	15:10	杉本公使成都着(HU155) 〈神谷次長、李瑾所員出迎え〉
	16:15	農業普及プロジェクト視察 〈神谷次長、李瑾所員同行〉
	17:30	錦江飯店にて李達昌副省庁会見、会食 〈櫻田所長、李瑾所員、金子局長、丸山職員、 鹿島専門家、山梨専門家同席予定〉
3月1日(木)	8:30	登録
	9:00	開会 四川省科技厅楊国安庁長挨拶 国家科技部国際合作司苑副司長挨拶 JICA中国事務所櫻田所長挨拶
	9:30	講演「対中ODAを巡る最近の動き」 (日本大使館 杉本公使)
	10:15	(同 質疑応答)
	10:30	コーヒープレイク
	10:45	講演「中日技協の概況と協力上の留意点」 (国家科技部 苑副司長)
	11:30	(同 質疑応答)
	11:45	昼食
	13:00	講演「中国におけるJICA事業の現況と今後の方向性」(JICA中国事務所 櫻田所長)
	13:45	(同 質疑応答)
	14:00	講演「青年海外協力隊事業の概要」 (協力隊事務局 金子事務局長)

- 14:30 事業説明「協力隊事業に係る事務手続きについて」
(協力隊事務局 丸山職員/市橋調整員)
事業説明「地方連携専門家・研修員に係る事務手続きについて」(JICA中国事務所 堀江所員)
- 15:00 コーヒーブレイク
- 15:15 協力事例紹介「四川省森林造成モデル計画」
(鹿島チーフアドバイザー)
- 16:00 質疑応答
- 16:45 事務連絡等
- 17:00 セミナー第1日目終了
- 18:00 懇親会
- 3月 2日 (金) 8:30 各科技庁(委)との面談「地域ニーズに応じた
JICA協力に向けて」 (注)
注) アンケート結果に基づき、2グループに分
かれて意見交換を行う
- 11:45 総括
- 12:00 記念撮影
セミナー第2日目終了
(昼食)
- 14:00 ホテル発
- 15:00 省農業庁第2農業科学研究所着
協力事例紹介「農業技術普及システム強化計画」視
察
＜省農業庁、山梨チーフアドバイザー他対応/
国家科技部、JICA事務所より数名同行＞
- 15:30 JICA事務所関係者、第2農科開発、空港へ
- 16:00 その他JICA事務所関係者、ホテル発、空港へ
- 17:40 JICA事務所関係者帰京(CA1408)

以上

“中日政府间(JICA 渠道)技术合作研讨会”

参会人员名单

人员 编号	姓名	性别	工作单位	职务或职称
	苑曙光	男	科技部国际合作司	副司长
	叶冬柏	男	科技部合作司亚非处	处长
	蔡志平	男	科技部合作司亚非处	项目官员
	杨国安	男	四川省科技厅	厅长
	王守仪	男	四川省科技厅	助理巡视员
	杨艳阳	女	广西科技厅	处长
	张晓飞	男	广西科技厅	主任科员
	邹彬	女	湖南省科技厅	项目官员
	陈毛生	男	湖北省科技厅	处长
	阮仲斌	男	湖北省科技厅	主任科员
	陶德新	男	湖北省科技厅	主任科员
	陈晓飞	女	甘肃省科技厅	科员
	唐安明	男	重庆市科委	处长
	王翠	女	云南省科技厅	主任科员
	孟鸿龙	男	云南省水利厅	正处
	包毅	男	内蒙科技厅	副处长
	井玉平	男	宁夏科技厅	处长
	阳延琴	女	新疆科技厅	副主任科员
	高志勇	男	西藏科技厅	副处长
	刘新安	男	陕西省科技厅	处长
	李艳杨	女	陕西省科技厅	项目官员
			青海省科技厅	
			贵州省科技厅	

	梁 晋	女	四川省科技厅	处 长
	赖建一	男	四川省科技厅	副处长
	李 燕	女	四川省科技厅	调研员
	胡 钢	男	四川省科技厅	副主任科员
	刘 忻	女	四川省科技厅	副主任科员
	邵亚萍	女	四川省科技交流中心	副主任
	段安平	男	四川省公安厅科技处	处 长
	赵希杰	男	四川省卫生厅	处 长
	肖祥贵	男	省农业厅	副处长
	刘汝之	女	省农业厅	项目办主任
	熊北蓉	女	省林业厅	处 长
			省畜牧局	
	王跃辉	男	成都市科委	助理调研员
	晏世经	男	四川大学外事处	副处长
	杨 明	男	成都中医药大学科技处	处 长
	罗学刚	男	西南科技大学	副校长
			电子科技大学	
			西南交通大学	
	毛继东	男	自贡市科委	主 任
	司立民	女	乐山市科委	副处长
	邓正寿	男	绵阳市科委	处 长
	马玉庆	男	茂县科委	主 任
			德阳市科委	
	马连营	男	宜宾市科委	主任科员
			攀枝花市科委	

U
LIE